

上越市立高田西小学校

平成 27 年度 学校支援プログラム
第 1 回全体リフレクション資料

H27.09.11

<アドバイザー> 佐藤 多佳子 准教授

<M2>歌代温子 小林圭 鯨井健嗣

<M1>江口航平 高橋正邦 中島成美

1. 支援校の研究主題

「自ら考え、進んで伝え合う子の育成」

～一人ひとりの思いや考えを表現し合う言語活動を通じて～

【国語の授業の工夫に関する手立て】

- ・課題提示の工夫・教材開発・教材活用の工夫・授業のUD化・基本的な話す、書くスキルの育成
- ・日常的な書き慣れるための取組・単元を貫く言語活動の設定・多様な伝え合いの場の設定の工夫

2. 研修の方向性

- ・学習意欲を引き出す課題設定を追求し、その活動の中でお互いの思いや考えを大切にし、力を合わせて学ぶことで、自分の主張を明確にし、表現できるような学習活動を目指す。
- ・実現に向け、研究授業の学習課題、伝え合いの設定の工夫をプロトコル等で分析し、子どもたちの学びの質や言語活動の価値を明らかにする。

単元を貫く課題設定

- ①学習意欲に結びつける手立て。(場の設定)
- ②課題意識を持てるような活動。

主体的な学習の中に、一人ひとりの思考・判断・表現が表れると考えている。

例：2年生 国語

ねらい

1年生に対して時系列で述べる

授業内で行う活動

付けさせたい知識

読み

1日の流れを元にした時系列

教材文

(「どうぶつ園のじゅうり」光村図書二上)

読み

野菜の成長に合わせた時系列

モデル文
(ジャガイモ図鑑)

書き(活用)

自分たちが育てた野菜の

〇〇図鑑づくり

1年生に分かるように説明をするという課題を基に
5月～8月間の野菜の成長に合わせた時系列

学年・学級	授業者	(上) 単元名 (下) 今後の支援の在り方
2年2組	柳郷子	じゅんじょにそって まとめよう 書くことを主体とし、思考内容を表出できるようにする授業支援
4年1組	仲野綾子	読んで考えたことを「思いのとびら」で紹介しよう 児童の学習活動に寄り添った形の国語科の授業支援
5年3組	木村志津子	随筆を書こう 言語活動を通して、児童一人ひとりが自分の考えを伝え合える授業支援

